

**令和8年度 第1回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会
会議要旨**

日 時	令和8年5月7日（木）午後3時～午後4時
場 所	こまきこども未来館 会議室（ラピオ2階）
出席者	<p>【委員】5名（※敬称略） 梶田光俊、水野一哉、外山貴彦、林文通、村田吉隆</p> <p>【事務局】4名 事業推進係長、係員、NPO 法人 10 人村（受託者）（2名）</p> <p>【傍聴者】なし</p>
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会名簿 3. こまき少年少女発明クラブ指導員名簿 4. 令和7年度発明クラブ報告書（資料1） 5. 令和7年度発明クラブ通信（資料2） 6. 令和7年度クラブ員アンケート（資料3） 7. 令和7年度保護者アンケート（資料4） 8. 佐橋工業（株）工場見学報告書（資料5） 9. 令和7年度こども広報（資料6） 10. 令和8年度活動計画（資料7）
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長あいさつ 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度の活動実績報告について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和8年度の活動について (2) 今後の予定について
会議要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長あいさつ <p>こまき少年少女発明クラブの活動も5年目となり、ますます充実してくるかと思う。こどもたちがいきいきと活動できる企画となるよう、忌憚ない意見をいただきたい。</p> 2. 議題(1) 令和7年度の活動実績報告について <ul style="list-style-type: none"> ・前期は12名に加え修了生1名がサポーターとして参加、後期は定員16名のところ19名で開催。徴収した材料費はすべてこどもたちに還元し、繰越なく活動を終えた。 ・課外活動として、前年に続いて『創意くふう展』の見学に行った他、前期は株式会社CKD、後期は佐橋工業株式会社の工場見学を実施した。活動終了時のアンケートでも「工場見学が楽しかった」という声が多かった。 ・前期は初回のオリエンテーション後、防災グッズに焦点をあてた。後期は初回に特許について学んだあと、日常生活からそれぞれ課題を見つけ、製作に取り組んだ。ともにこども同士が協力しあえるよう心掛けた。 ・『創意くふう展』への出展は現時点ではできていない。出展することを目的とした活動ではなく、発明やモノづくりの楽しさを重視し、その先
事務局	

	<p>に出展があるというかたちにできればと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学において保護者も一緒に活動する機会も設けたことで、活動について好意的に受け止めていただいているように感じる。今後も継続していきたい。 ・後期は市のこども向け広報（DIGI こま）の取材を受け、その内容が特集記事として公開された。参加しているこどもたちの思いを客観的に捉える貴重な機会となった。記事は市ホームページの他、市内小中学生向けにも配信され、「見たよ」と嬉しそうに話すこどもも見られた。 <p>《質疑応答・感想》</p>
林委員	CKD 株式会社の工場見学についてこどもたちからとても高い評価を得ている。具体的にどういった点に良いと感じていたかは把握しているか。
事務局	アンケートが前期活動の最終回で実施されたため、詳細な聞き取りまでできていない。見学自体がかなりプログラム化された内容であり、普段見ることができない工場内部に興味を持って楽しそうに見学している様子があった。見学の趣旨とはやや異なるが、友達ができたことや、一緒にバスに乗ったことが楽しかったと話している子もいた。
林委員	DIGI こまにおいて、グループ製作や友人と協力して取り組むことについてこどもたちから前向きな発言がみられる。自らアイデアを出し、それを周囲が形にするなど、個人では難しい活動がグループでは実現されることもある。通常の活動はグループで行っているのか。学年が離れていると共同での製作は難しいかもしれないが、他学年の参加者と関わることで刺激を受けながら活動できることは良いと感じる。
事務局	基本的には個人での取り組みとしているが、製作はテーブルをわけてグループで行っている。活動を重ねるにつれて「ここを支えてほしい」など、お互いに協力し合っている様子が確認できた。
水野委員	保護者アンケートにおける回答が目指している「発明クラブがこうあってほしい」という姿の実現に近づいているようでうれしく思う。工場見学の報告は、企業秘密の関係から詳細が把握しにくい部分も多いものの、実際に発明クラブに参加しないとわからないというのも一つの価値があると考えられる。
外山委員	工場見学のアンケートを見ると、自分たちが思わぬところに興味を示すきっかけがあることを実感する。実体験からも、見学の目的とは異なる内容であってもそのような記憶が経験として残っていくように感じる。保護者が活動に参加できることは保護者にとっても有意義な機会。積極的に呼びかけても良いのでは。

梶田委員長	工場見学はすべて保護者同伴で行っているのか。
事務局	後期の佐橋工業株式会社工場見学、『創意くふう展』の見学のみ。前期の工場見学まではこどもだけの催行としていたが、バスの定員の都合等もあり、後期から保護者にも参加を呼びかけたところ良い結果に繋がった。
村田委員	活動の規模が拡大している中で、施設管理の立場としては活動スペースの確保が今後の課題となるが、うれしい悩みである。
梶田委員長	後期はアイスブレイクの時間がないようだが、なにか意図があるのか。
事務局	前期始動時に、こども同士の交流について慎重に対応する必要があると考え、アイスブレイクの時間を設けたが、想定ほど課題は見られなかったため、後期はその時間を設けなかった。実際、活動を継続していく中で、自然と関係性を築いているように感じる。
	【 議題(1) ⇒ 承認 】
事務局	<p>3. <u>その他(1)令和8年度の活動について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任指導員、指導員は令和7年度に同じ。 ・前期の募集期間を終え、募集人数16名に対し33名の申込みがあった。市外在住の初参加者を除く28名を受け入れる予定。リピーターは全体の半数で昨年度から継続して参加する者が12名、期間を空けて再度参加する者が2名。初回オリエンテーションを通じて保護者にも理解を得たうえで、参加する意向を示した申込者から材料費を徴収することとした。 ・すべて個人製作を想定しているが、継続する人数によってグループでの製作に切り替える可能性もある。 ・前期は、『耐荷重チャレンジ』『自分の居場所を作ろう！段ボールシェルター』をテーマにした活動を計画、それぞれに関係する企業や個人に協力を依頼。最終回にはこれらの課題に関係の深い取り組みを行っている企業の工場見学を実施予定。 ・後期は、日常の小さな悩みを思わず取り組みたくなるようなユニークな商品で解決している企業に協力を依頼し、『ワクワクドキドキするような発明品をつくろう！』をテーマにした活動を計画。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第1回こまき少年少女発明クラブ開催の案内 日時：令和8年5月10日（日）午後2時30分～午後4時30分 場所：こまきこども未来館体験ひろば（ラピオ3階）</p> </div> <p>《 質疑応答 》</p>
林委員	リピーターの参加はありがたいが、これまでの活動と同様の内容であることを理解したうえで申込みされているのか。

事務局	課題を公表したうえで募集を行っているため、認識のずれはないと考えている。
梶田委員長	28人全員が参加の意向を示した場合、問題はないか。初参加の子をどうサポートしていくかが大切。
事務局	<p>特に『自分の居場所を作ろう！段ボールシェルター』は活動スペース確保が懸念される。必要に応じてペアやグループでの活動も検討していく。初参加となる小学3年生が多いので配慮していきたい。</p> <p>3. <u>その他(2)今後の予定について</u></p> <div data-bbox="395 719 1426 864" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>第2回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会開催の案内 日時：令和9年2月頃（予定） 場所：こまきこども未来館（予定）</p></div>